

科目名	学生生活入門 I (国際観光学科)	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 (第 1 グループ) <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群 (第 2 グループ)
			国際観光学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to University Life I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1 年 <input type="checkbox"/> 2 年 <input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
ふりがな	きむら きよし・たきもりたけし・いのうえ ひろし	開講期間	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	木村 澄・瀧森 威・井上 寛	修得単位	2 単位
授業のテーマ	主体的な学びの姿勢の育成、基礎的スタディスキルの修得、生活指導ならびにキャリア・サポート		
到達目標	1. 主体的な学びの姿勢を身につけることができる。 2. スタディスキルの基礎をしっかりと身につけることができる。 3. 明確な目標の実現に向けて、情熱を持ち続けながら取り組むことができるようになる。		
授業概要	大学生らしく学ぶためには、はじめに「主体的な学びの姿勢」を身につけることが重要です。そのためには、スタディスキルの基礎をしっかりと身につける必要がありますし、体験学修などを通して、社会人基礎力としてのコミュニケーション能力や教養を高めることも重要です。この科目ではこれらを総合的に学ぶことができます。		
授業計画			
第 1 回	オリエンテーション・個人面談		
第 2 回	大学生の学び ―ノートテイキング		
第 3 回	図書館の利用方法		
第 4 回	電算室の利用方法、コンピューターの基礎		
第 5 回	法学の基礎		
第 6 回	観光英語 1		
第 7 回	総合学習 1		
第 8 回	観光論の復習―論述の方法		
第 9 回	観光英語 1		
第 10 回	プレゼンテーションの基礎 1		
第 11 回	レポートの書き方		
第 12 回	法学の基礎 2		
第 13 回	総合学習 2		
第 14 回	プレゼンテーションの基礎 2		
第 15 回	前期の反省・個人面談		
第 16 回	定期試験		

授業時間外の学習	<p>[予習]授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、参考文献やWEBサイトなどを活用し予習をしてください。(90分程度)</p> <p>[復習]ノートや配布資料を確認し、参考文献やWEBサイトなどを活用し復習をしてください。(90分程度)</p> <p>[その他]新聞を読み社会の出来事に関心を持って生活してください。(30分程度)</p>
履修条件 受講のルール	<p>国際観光学科1年生の必修科目です。</p> <p>大学生らしい整容と主体的な学びの姿勢が求められます。</p>
テキスト	<p>授業時に適宜資料を配布します。(特定のテキストは使用しません)</p>
参考文献・資料	<p>JTB能力開発『観光学基礎—観光学入門のための14章』(第8版) 2019年 (2,260円+税)</p> <p>※観光論入門ⅠⅡで使用するテキスト</p>
成績評価の方法	<p>下記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <p>①定期試験(50%) ②課題の提出と発表(30%) ③主体的学びの姿勢(20%)</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・木村(月曜日13時00分～14時および木曜日14時40分～15時40分) ・瀧森(金曜日10時40分～12時10分) ・井上(月曜日10時40分～12時10分及び金曜日13時00分～14時30分)・ <p>※これ以外の時間は事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成28(2016)年度以降入学した学生</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>「学生生活入門Ⅰ」での学びは、すべての学修の基盤となります。ここで一生懸命学ぶことにより、大学4年間で充実したものとなるはずですが、決意と情熱をもって取り組んでください。</p>